

平成21年 5月20日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2005～2008

課題番号：17330056

研究課題名（和文） 産業クラスターにおけるソーシャル・キャピタルの国際比較研究

研究課題名（英文） A research on social capital in the industrial clusters from a International point of view

研究代表者

岡本 義行（OKAMOTO YOSHIYUKI）

法政大学・大学院政策創造研究科・教授

研究者番号：50105847

研究成果の概要：産業クラスターの環境適応力を明らかにすることが研究目標である。その地域におけるソーシャル・キャピタルの概念を仮説として設定したが、さらに企業家ネットワークだけではなく地域の間人関係やコミュニティの性質をさらに研究する必要があることがわかった。国際比較調査による研究によれば、ソーシャル・キャピタルだけではなく、産業クラスターにおける「企業間取引と地域コミュニティの二重性」の関係が重要であるとの知見を得た。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	3,500,000	0	3,500,000
2006年度	3,200,000	0	3,200,000
2007年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2008年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
総計	12,300,000	1,680,000	13,980,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：産業クラスター、産業集積、産地、ソーシャル・キャピタル、信頼、企業家ネットワーク、技術革新、環境適応

## 1. 研究開始当初の背景

地域産業の活性化や地域産業の創出を目的に、世界中で産業クラスターが注目され、産業クラスター政策が実施されてきた。しかし、産業クラスターに対する理解が十分ではないために、的外れな政策が多く、今後の地域活性化には産業クラスターの理論的な政策を明らかにすることが不可欠であると考えた。

## 2. 研究の目的

政策の基礎として有効であり、産業クラスターに対する操作性のある理論は存在しないこともあり、産業クラスターの構造と進化のメカニズムを明らかにすることが、本研究の目的である。とくに、産業クラスターの地域におけるソーシャル・キャピタルのあり方に注目して明らかにしようとした。

### 3. 研究の方法

産業クラスターは経済環境の変化に対応して進化しなければ生き残ることは出来ない。そこで、その構造や事業を転換させながら、生き延びてきた産業クラスターを比較調査しながら、研究する方法を採用した。とくに、同業種の産業クラスターを、経済取引とソーシャル・キャピタルとの関係に注目しながら、国際比較することが本研究の方法である。

### 4. 研究成果

産業クラスターにおける経済的關係とソーシャル・キャピタルとの関係の研究が目標であり、産業クラスターの環境適応性をソーシャル・キャピタルの視点から研究しようとした。経済環境の変化に対応するためには、情報共有や将来に対する投資など、地域コミュニティの単なるソーシャル・キャピタルの重要性はわれわれの研究によって確認できた。

本研究でキー概念となるソーシャル・キャピタルに関する研究も行った。しかし、ソーシャル・キャピタルの概念は必ずしも操作性のある概念とはいえないことがわかった。この概念に代わって信頼をキー概念とすることが、本研究にとって有効であるとの結論に達した。

産業クラスターとソーシャル・キャピタルとの関係に関する仮説は、信頼の概念を媒介にして、産業クラスターにおける「経済ネットワークと地域コミュニティにおける二重性」という仮説に転換することが望ましいことがわかった。

ところで、外部環境の変化に対する産業クラスターの進化は長期的な課題であるが、産業クラスターの進化という問題は、市場の「見えざる手」によっては解決できない。市場における需給調整の累積が市場参加者の構造変化を誘導できるかどうかは、理論的にはほとんど明らかにされていない。産業クラスターにおいては、企業家たちの意志決定により進化する。

産業クラスターが生き残らなければ自らも生き残ることはできない、これが地域コミュニティであり、産業クラスターである。

産業クラスターという視点は短期的利害に関わるが、地域コミュニティという視点は長期的である。産業クラスターの進化には長期的視点が不可欠であり、それをどのように調整するかは地域コミュニティの構成員の意識であり「民度」の問題であるといえるかもしれない。産業集積外とのネットワークの重要性も示唆している。これが本研究の主要な成果である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

- ① 「産業集積の転換可能性：なぜ産業集積は進化するのか」、岡本義行、『イノベーションマネジメント研究』(法政大学イノベーションマネジメント研究所)、6号、2009年3月、pp.23-40 査読無
- ② 「地域政策の新しいパラダイム」、小峰隆夫、『地域イノベーション』、第0号、2008年、pp.1-8 査読無
- ③ 「ベンチャー論と21世紀の起業家社会」、原田誠司、『長岡大学研究論叢』、第6号、2008年、pp.1-11 査読無
- ④ 「ビジネスモデル戦略と企業競争力の再構築」、原田誠司、『地域研究』、第7号、2007年、pp.41-52 査読無
- ⑤ 「米国地域市民の起業家精神とエクイティ・マインダー大学・民間企業・コミュニティを核とする地域再生の3つの事例」、小門裕幸、『法政大学キャリアデザイン学部紀要』第三号 2006年3月、pp.125-51 査読無
- ⑥ 「新成長戦略と地域イノベーション」、原田誠司、『地域研究』、第6号、2006年、pp.43-59 査読無
- ⑦ 「日本の産業集積の特徴－産業集積に関する試論(1)－」、岡本義行、『社会志林』、題52巻1号、2005年7月、pp.29-46 査読無
- ⑧ 「内部・外部経済論－産業集積理論の再構築に向けて－」、原田誠司、『地域研究』、第5号、2005年、pp.61-74 査読無

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 3 件)

- ① "Industrial Districts in Japan", Yoshiyuki Okamoto, THE HANDBOOK OF INDUSTRIAL DISTRICTS, Eds. Giacomo Becattini, Marco Bellandi, and Lisa De Propris, Edward Elgar Publisher, 2009, forthcoming
- ② 『女性が変わる日本経済』、小峰隆夫、日本経済新聞社、2008年、176ページ
- ③ 『日本経済の構造変動－日本型システムはどこに行くのか』、小峰隆夫、岩波書店、2006年、256ページ

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

岡本 義行 (OKAMOTO YOSHIYUKI)  
法政大学・大学院政策創造研究科・教授  
研究者番号：50105847

### (2) 研究分担者

小峰 隆夫 (KOMINE TAKAO)  
法政大学・大学院政策創造研究科・教授  
研究者番号：90366823

小門 裕幸 (KOKADO HIROYUKI)  
法政大学・キャリアデザイン学部・教授  
研究者番号：20322521

松本 敦則 (MATSUMOTO ATSUNORI)  
法政大学・大学院イノベーション・マネジメント研究科・准教授  
研究者番号：20433211

原田 誠司 (HARADA SEIJI)  
長岡大学・産業経営学部・教授  
研究者番号：90228643

山本 健児 (YAMAMOTO KENJI)  
九州大学・大学院経済学研究員・教授  
研究者番号：50136355

### (3) 連携研究者